



今月のことば

Words of the Month

ゴルフと弁理士

日本弁理士会副会長

永田 元昭

過去、誰も書いていないようなので、私の趣味のゴルフと弁理士や知財と絡めてみようと思います。

興味を持ったのは弁理士に合格してすぐ、父の勧めで始めたゴルフですが、長男の中学受験が終わったのをキッカケに完全にハマりました。私はよく「カレンダーの色の付いているところはラウンドです。」などと話していますが、本当に最近の10年くらいはずっとこの調子です。

ゴルフの何が面白いのか、考えたことがありませんでしたが、説明しようと思った時に思い付いたのは、「全てがセルフジャッジ」の点でしょうか。学生時代にはバレーボールやテニスなどをやってきましたが、他者により評価され、判定されるスポーツでした。自らがプレーヤーでありながら、自らがレフリーとして判定まで下し、原則自己申告で成り立っている（正式な競技の場合はマーカーがいますが…。）このスポーツには魅力を感じました。自らのプレーを評価して喜ぶのも自分だし、自らのミスにがっかりするのも自分。内面がそのまま結果になって表れる、本当にメンタルなスポーツだと実感します。

巷では「1 ラウンド一緒にプレーしたらだいたいその人のことが分かる。」と言われたりしますが、それは実感として本当だと思います。真面目な人は本当に真面目なゴルフをするし、いい加減な人は本当にいい加減なゴルフをします。自己中心的な人は本当に自己中心的なゴルフをするし、ナイーブな人は本当にナイーブなゴルフをします。気の利く人は本当に気が利くゴルフをするし、空気を読まない人は本当に空気を読まないゴルフをします。初対面でも例に漏れず、真剣にプレーすればするほど、その人の内面を見せて貰うことになります。実はこれが仕事の仕方にヒントをくれるのです。性格が分れば、対処方法はある程度絞られます。仕事の場でその人が重要視する“勘所”を押さえられれば、意外なほどスムーズに話が進むこともしばしばです。

「いい仕事をするヤツは、グリーンで仕事の話をして、会議室でゴルフの話をする。」って、昔、父から聞いた時には、「そんなはずはない。いい加減な仕事をするな！」と息巻いていた私ですが、完全に実践してしまっているこの頃です。特に、質の良い倶楽部ライフを期待できるゴルフ場では、初対面の人とラウンドしながら世間話をしているうちに営業してしまっているケースも多くあります。本当です。でも自分からはどんな仕事をしているかは決して言いません。格好悪いからです。「ちなみに、どんな仕事をしているのですか？」と相手に言わせるのがテクニック（？）だと思っています。そんな時、人によっては「特許なんて取っても仕方ない。役に立たない。」なんて、知財に対して否定的な事を言う人も少なくありません。そういう時は大抵「これまで感覚の合う弁理士さんに巡り合わなかったのですね…。」と言うようにしています。別の人は「うちが依頼しているのは〇〇先生だったかな。知ってますか？」と聞かれるケースも多いです。知財業界は比較的狭いので、知っている事務所のケースもありますが、会務に参加してくれていない事務所の場合は知らないケースもやはりあります。

また、これも不思議なことに、ゴルフ愛好者と個人発明家の相関関係は確実に高いです。ゴルフをするぐらい金銭的・時間的にある程度の余裕のある人だから、発明をして出願をしようと思いつのか、それとも、発明をするような人はゴルフのようなスポーツを好きになるのか。何が理由かは分かりませんが、あらゆるスポーツ用品の中で、個人による用品の特許（実用新案登録）出願が多いのはゴルフであり、日本のみならず世界的に見ても当て嵌まる様です。ゴルフ練習器具などの先行技術調査や出願に携わった弁

理士であれば、一度は感じたことがあると思います。

次にこれは私の個人的な話ですが、ゴルフよりもゴルフ場が好きです。上には上がいることを承知で申し上げますが、ラウンドしたことがあるゴルフコースが400ゴルフコースになりました。日本には2000を超えるゴルフ場があるそうですが、生きているうちにどれくらい行けるのか、試してみたいところです。遠くのゴルフ場に遠征する場合は旅行がてら仲間に出掛けて行くことになります。その土地の旨いものを食べて、その土地の文化に触れて、その土地のゴルフ場を堪能して帰るのですが、これを年間で10も20も企画していると、何が本業か分からなくなることも有ったり無かったり…。弁理士ゴルフ仲間コミュニティ、弁理士会派コミュニティ、弁理士超会派コミュニティ、高校同窓会コミュニティ、大学同期コミュニティ、大学同窓会コミュニティ、所属ゴルフ倶楽部コミュニティ、単なるゴルフ友達コミュニティ、同じ女子プロゴルファーを応援するコミュニティなどなど…。そしてゴルフ場の予約というのは、地域やゴルフ場ごとにそれぞれ予約の方法や受付開始時期などが異なり、様々なチャンネルを駆使しないと意図したプランを立てられない場合もあるのです。直接交渉してみたり、人伝にコネクションを探してみたり、以前の貸しを返してもらったり…。ありとあらゆる手段を駆使して予約を重ねていく中で、自然と交渉術を身に付けたような気がします。

そして、ある程度たくさんのコースをラウンドしていると、同じゴルフ“場”好きの人との話題には尽きません。どこのコースに行ったことが有るとか無いとか、有名なゴルフ場設計者の設計コースをいくつラウンドしたとか、あそこのコースの名物の何番ホールはどうだとか…。マニアックな知る人ぞ知る名コースを教えて貰えた時は、本当に得した気分です。その人が、いつかは行ってみたいと思っていた名門コースのメンバーさんだった時なんて、本当に心から嬉しい瞬間です。

一方でゴルフ“場”にあまり興味のない人からよく聞かれるのは「今まで行った中で一番良かったコースは？」です。「良かった」の定義は？」なんて聞き返したくなりますが、これをすると妻に「弁理士の悪い癖」と言われてしまうので、大抵は「ゴルフの難しさを再確認させ、ゴルフの魅力の再認識を求めるなら〇〇。コース設計の奥深さや景色の雄大さを求めるなら〇〇。単にスコアを求めるなら簡単な〇〇。敷居の高さとステータスを求めるなら〇〇。」のように答えるようにしています。もしかしたら弁理士選ぴと似ているかもしれません。

最後に「マッチプレーのすすめ」です。通常、ゴルフと言えばストロークプレーが主流だと思います。男子・女子のプロのトーナメントをはじめ、アマチュアのゴルフコンペや友人同士のプライベートラウンドでも、18ホールのカップインまでの打数を競うのが一般的かと思います。しかしながら、倶楽部の競技などに出場すると、マッチプレーで勝敗を競う場合があります。このマッチプレー、ゴルフでありながらまるでゴルフではありません。むしろ将棋やチェスのように、相手の一打・自分の一打ごとに、勝負の形勢が入れ替わり、何とも言えない面白さがあります。発祥当時のゴルフはマッチプレーを前提としていた記述も残っているらしく、もしかしたら本来の楽しみ方なのかもしれません。仲間内でマッチプレーの大会を催すことも有るのですが、1対1だとあまりに一打が重いので、2対2のダブルスで楽しんでいます。ご興味がおありなら、是非一度試してみたいです。

弁理士としての仕事にも通じる場所ですが、ルールを遵守するは当たり前。その上で紳士・淑女としてのプライドを持ってモラルとマナーを尊重し、楽しいゴルフライフと弁理士ライフを満喫してください。あと、プレーファストは絶対です。